

総合的な
学習の時間

第9学年

呉市立天応学園

指導者 森田 翔太
榎尾あさみ単
元
名ためにならんワケないじゃん！
～防災フェス開催～令和6年 10月29日（火）
9A教室 計24人

「本質的な問い」・「単元を貫く問い」について

本質的な問い	災害と向き合い、どう生きるか。
単元を貫く問い	災害から天応のまちを守るために、何が必要か。

単元（題材）について 【単元観】

平成30年西日本豪雨災害時に甚大な被害を受けた天応地区であるが、災害から時間が経過する中で、当時の記憶の継承が課題となっており、学校と地域の連携による地域防災力の強化に向けた取組が求められている。本校では、総合的な学習の時間の探究課題として「防災」を位置付けPBLの考え方を取り入れて実践している。

第9学年の総合的な学習の時間の目標を、「探究的な見方・考え方を働かせ、天応の人、もの、ことに関わる横断的・総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題をよりよく解決し、自己の生き方を考えることができる。」と設定した。

本単元は、これまで学んできた防災に関わる情報を生かして、自分たちにできることを考えて地域に貢献しようとする単元である。「災害に強いまち」とはどのようなまちかを考え、自分たちが学び、考えてきたことを発信する機会とする。地域住民の誰もが防災を身近に感じ、防災意識を高め、防災知識を深め、地域との絆を深めるという目的を達成する手段として生徒が企画した「防災フェス」を位置付ける。

本単元の学習により、地域課題を探究し、主体的・協働的に取り組むとともに、よりよい地域や社会をつくるために、自分ができることを考え、実行できる生徒の育成を目指していく。

生徒について 【生徒観】

次の表は、本単元の学習に入る前に実施したアンケートを集約したものである。

NO	質問内容	肯定的 回答
①	根拠を示して、説得力のある説明ができる。	76.5%
②	日常生活において、自分ができることを考え、実行しようと考えている。	82.4%
③	地域に貢献したいと考えている。	82.4%
④	難しいことでも失敗を恐れず挑戦することができる。	70.6%
⑤	収集した情報から必要なものを取捨選択し、整理して発表できるようにまとめることができる。	76.5%
⑥	自信をもって自分の思いや考えを相手に進んで伝えることができる。	70.6%

(令和6年6月11日実施)

項目②③の数値から、生徒は地域のために個人の範囲でできることを行動に移す意欲が高いことが分かる。しかし、社会に出れば個人の力で成し得ることは限られており、必要に応じて他者と協働する必要性に迫られることが多い。生徒の実態として、④⑥の数値が低いことから、他者と進んでコミュニケーションを図りながら、「今の自分一人にできること」から一歩踏み出しチャレンジする姿勢を身に付けていく必要があると考える。被災した経験により、地元天応に対して強い思いをもつ本学年の生徒であるからこそ、本単元を通してそうした経験を積み重ねさせたい。

指導の工夫について 【指導観】

単元観で述べたように、地域に貢献する取組を進めていながら、自他を尊重し、対話により学び合い、自分自身を励まししながら、目的実現に向けて、粘り強く挑戦を続ける態度といった資質・能力を高めていきたい。そのために、次のように単元の展開を工夫する。

まず、単元の導入時には、昨年、一昨年と防災学習に取り組んできた内容を基に、自分たちがやり残したことと、やりたいことについて考えることで「災害とどのように向き合い、災害に強いまちをつくるために、どのようなことをしていかなければいけないか。」といった課題を自ら設定できるようにする。また、その過程を通して、災害に強いまちづくりを進めていくためには、「防災意識を高める」、「防災知識を深める」、「地域との絆を深める」ことが必要であることに気付くようにする。

次に、災害に強いまちづくりに向けて、生徒が企画した手段として、「防災フェス」の開催に取り組む。その際、今まで学んできた防災に関わる情報を活かし、災害について研究する学生やボランティア団体と交流し、対話できる「もの」や「こと」についての多様な情報を収集・取捨選択し活用できるようにする。その過程で、各チームによる協働的な学びやプレフェスの取組などにおいて多様な他者と交流する場を設けることで、自信をもって自分の思いや考えを伝える力を高められるようにする。

このように、各学習活動において生徒が身に付けるであろう資質・能力が何かを明確に描き、探究的な学習が進められるよう学びをコーディネートしていく。

1 単元目標

被災した天応地区の復興のシンボルである天応学園の最高学年として、災害に強いまちをつくる取組を創案し、実行する活動を通して、一人一人の防災意識の向上や地域が協力して助け合うことが減災につながることを理解し、災害に強いまちを願って地域社会の一員としてできることを考えるとともに、他者と協働しながら地域社会に貢献できるようにする。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 地域住民の防災意識の高まりと地域が協力して防災に努め、助け合うことが災害に強いまちにつながるということを理解している。 【知①】 ② それぞれの目的に応じて収集した情報を手際よく分類している。 【知②】 ③ 防災について探究し、発信することによって、身近な地域に貢献できることに気付いている。 【知③】	① 災害に強いまちをつくるために必要なことを考えながら課題を設定し、解決に向けた取組を、見通しをもって計画している。 【思①】 ② 課題の解決に必要な情報を、目的や種類に合わせて、多様に収集している。 【思②】 ③ 収集した情報を取捨選択したり、自分の思いや考えと比較・整理・関連付けをしたりしながら、解決に向けて取り組んでいる。 【思③】 ④ 自分の考えをまとめ、根拠を明確にしながら、目的や相手に応じて、適切な方法で表現している。 【思④】	① 課題解決に向けて、他者の意見に耳を傾けながら、自分の考えを再構築しようとしている。 【態①】 ② 他者の考えを生かしたり、協力したりしながら、目標達成に向けて、進んで活動に取り組もうとしている。 【態②】 ③ よりよい地域づくりに参画・貢献する活動を通して、地域のために自分ができることを見つけようとしている。 【態③】

3 単元の計画（全 35 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価 規 準			他教科等との 関連	
			知	思	態		評価方法
第 一 次	1	課題の設定 ・災害に強いまちを実現するために自分たちに何ができるのかを考える。	①			行動・発言 ワークシート 振り返り	社会科 「地域の在り方」
	2						
	3	・どんな目的、どんな内容、どんな形式で防災について発信するかを考える。					
	課題① 防災イベントを企画しよう ～これまでの学習を踏まえて～						
	4	情報の収集 ・これまでの学習と先行事例を調べ、必要な情報を取捨選択しながら収集する。		②		行動・発言 ワークシート 振り返り	
	5						
	6	・防災イベントでどんなことを伝えるか考える。 ・防災フェスのキャッチフレーズを考える。					
	7	整理・分析 ・収集した情報を整理・分析し、企画書を作成する。		③		行動・発言 ワークシート 制作物 振り返り	
	8	・コンセプトやターゲット、プロモーション方法などを考え、企画書に盛り込む。					
	9	まとめ・表現 実行 振り返り ・企画書をもとに、プレゼンテーションを行う。			①	行動・発言 ワークシート 振り返り	
10	・プレゼンテーションを終えて、得たことや考えたことをまとめたり整理したりする。						

第二次	11	課題の設定 ・企画した提案を防災フェスで実施するためには、どんな準備が必要であるかを考える。 ・防災フェス「成功とは？失敗とは？」を考える。 ・プレフェスを実施して、防災フェス本番の成功へつなげる。	①	①	行動・発言 ワークシート 振り返り					
	12									
	13									
	14									
		課題② 防災フェスを開催しよう ～プレフェス開催～								
15	情報の収集 ・それぞれの係に分かれて、情報を収集し、防災フェスの運営計画を立てる。 ・運営や進行を適切に行うためには、何が大切かを考える。	②			行動・発言 ワークシート 振り返り					
16										
17	整理・分析 ・収集した情報を整理、分析し、運営計画書を作成する。 ・運営計画書を読み込み、他の係の改善点を考える。		③		行動・発言 制作物 ワークシート 振り返り	国語科 「情報を関係づける」				
18										
19	まとめ・表現 ・運営計画書をもとにプレゼンテーションを行う。 ・他の係から出された意見をもとに計画案を再検討する。		④		行動・発言 ワークシート 振り返り					
20										
21	実行 振り返り ・プレフェスの打合せを行い、役割を確認する。 ・プレフェス開催に向けて準備を行う。 ・プレフェスを開催し、リハーサルを行う。 ・プレフェスの開催を終えて、自己評価を行う。	③		②	行動・発言 ワークシート 振り返り	美術科 「地域の魅力を伝える」				
22										
23										
24										
第三次	25	課題の設定 ・プレフェス参加者の意見や感想から、防災フェスの見直しをする。 ・防災フェスを成功に近づけるためには、どんな点を改善したらよいか考える。			①	行動・発言 ワークシート 振り返り				
	課題③ 防災フェスを開催しよう ～私たちにできること～									
	26		情報の収集 ・プレフェスの自己評価と参加者のアンケート結果を収集する。	②					行動・発言 ワークシート 振り返り	
	27		整理・分析 ・収集した情報を可視化し、整理する。 ・整理した情報を読み取り、課題を分析し、企画と運営の改善案を考え、協議する。					②		
	28									
	29	まとめ・表現 実行 ・企画書と運営計画書のバージョンアップをする。 ・防災フェス最終打合せを行い、企画、運営、役割等の確認を行う。 ・防災フェス準備・リハーサルを行う。 ・防災フェスを開催する。		④		行動・発言 ワークシート 振り返り				
	30									
	31									
32										
33	振り返り ・防災フェスの目的が達成されたか検証する。 ・災害に強いまちにしていけるために、自分たちができることは何か考える。			③	行動・発言 ワークシート 振り返り	道徳 「社会参画、公共の精神 (C-12)」				
34										
35										

4 本時に関わる単元ルーブリック

観点	主体的に学習に取り組む態度	
評価規準	他者の考えを生かしたり、協力したりしながら、目標達成に向けて、進んで活動に取り組もうとしている。	
ルーブリック	A	B
	得た情報と自己の考えを照らし合わせ、他者の良さと自分の良さを活かし、協働しながら、課題を克服しようと積極的に探究活動に取り組もうとしている。	他者の考えを生かしたり、協力したりしながら、目標達成に向けて、進んで活動に取り組もうとしている。

5 本時について（本時 28/35）

（1） 本時の目標

プレフェスの開催後の自己の振り返りや参加者の感想・意見、アンケート結果を分析し、改善策を考える活動を通して、防災フェスを成功させるために、自己の考えを深め、他者と協力しながら進んで活動に取り組むことができる。

（2） 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点	◎ 評価規準（評価方法） ◆ 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て
知る	課題の設定 1 本時のめあてを確認する。	◇ 前時を想起できるようプレ開催時の写真を見せる。 ◇ 自ら課題設定できるよう防災フェスの目的・参加者満足度の確認を行う。	
	（めあて） プレフェスで参加者から出された意見をもとに、防災フェスの計画の見直しをしよう。		
	情報の収集 2 参加者からの感想や意見の内容とアンケート結果を確認する。	◇ 各班が収集した情報を提示することで課題を明らかにできるようにする。	
確かめる・深める	【中心発問】 防災フェス参加者の満足度を高めるために、どんな改善が必要か。		
	整理・分析 3 参加者の感想や意見を基に、新たな課題を見付ける。	◇ 解決すべき最重要課題を見付けられるように情報を取捨選択し、課題を焦点化できるようにする。	
	【予想される課題（例）】 企画面：地域の人が積極的に参加しやすい環境が整っていなかった。 児童生徒と地域の人とのつながりが感じられる場面が少なかった。 各ブースの内容や所要時間が知りたかった。 運営面：会場が混雑し、各ブースの待ち時間が長かった。 受付に時間がかかった。 空いているブースと混んでいるブースが二極化していた。		

確かめる・深める	④ 4 課題を克服するため、改善案・改善後のイメージを考え、防災フェスの見直しを図る。	◇ 防災フェスの目的・参加者の満足度指標を意識できるようにする。	◆ 改善前の状況と改善後の状況の具体的なイメージをもって比較するように声をかけ、比較する視点の焦点を明確にし、より具体化して考えられるようにする。
	(深い学びにするための「しかけ」) 地域の人が参加しやすい環境をつくるために、どんな企画にすればよいだろう。混雑が予想される施設のイベントでは、どのような工夫がされているだろう。 まとめ・表現 5 本時のまとめをする。	◇各班が考えた課題と改善案を板書に記入する。 ◇本時の思考の過程を振り返り、次時以降に考えていくべき課題を確認できるようにする。 (まとめの例) 次の2点を新たに考えていくことで、防災フェスが成功に近づくであろう。 ① 児童生徒と地域の方が交流できる場を意図的に設定する必要がある。 ② 防災フェスで人が混雑しないように参加者がある程度、整理する必要がある。	
振り返る	振り返り 6 本時を振り返り、次時への見直しをもつ。	(振り返りの例) ○プレ開催で発生した課題として、人の混雑と地域の方とのつながりが薄いことが分かった。その改善策をグループで意見を出し合うことができた。私は、地域の人と関わる場をつくって、児童生徒と地域の方の絆が深まるような企画を進めていくことが大切だと思った。また、話し合いを進めていく中で、いかに待ち時間を少なくできるかを考え、班のメンバーと協力して、改善策を見付けることができた。企画と運営を見直して、防災フェスが成功できるようにこれからも取り組んでいきたい。 ○プレ開催で明らかになった一番の課題は、各ブースの待ち時間が長かったことである。私たちの班では、目的の達成は第一条件であるが、目的を達成するためには、運営など様々な視点から考えなければならないことに気付くことができた。例え、自分たちの目標が達成されたとしても、参加してくださったお客さんの表情が疲れていたり、退屈な時間をつくってしまったことになると、このフェスは成功したとは言えないと思う。参加者に寄り添った形で企画や運営の見直しを行っていきたい。 ○プレ開催では、会場が混雑するなど、運営面の課題が多く見付かった。混雑を回避するための工夫を考えることができた。企画面でも、もっと地域の人々と交流ができる工夫が必要であることがわかった。 ○いかに退屈な時間を排除できるかが課題だった。各ブースの人員を増やして待ち時間を短縮させるか、待ち時間に班でできる企画を実施するかで話し合いを行うことができた。	◎他者の考えを生かしたり、協力したりしながら、目標達成に向けて、進んで活動に取り組もうとしている。<u>図2</u> (振り返りの記述)

6 本時の板書計画

単元名	ためにならんワケないじゃん！ ～防災フェス開催～
めあて	プレ開催で参加者から出された意見をもとに、 防災フェスの計画の見直しをしよう。

アンケート結果・振り返りや感想

防災フェスの目的	参加者の満足度指標
①防災知識を深める ②防災意識を高める ③地域の絆を深める	①楽しいと思える企画 ②スムーズな運営（退屈時間排除） ③活発な交流

	課題	改善案
企画		
運営		
その他		